

『もりおかの短歌』

春の部 優秀賞十首

たくぼく

啄木がこころ吸われし青空を

す

あおぞら

さが

探してのぼる

しろ

城あとの坂

さか

滝沢市 澤内 イツ

おく ひな

遅れ雛

ふる かお

古き香りを漂わせ

ただよ

いまみ

ひと

かこせ

さそ

今観る人を過去世に誘う

盛岡市 赤坂 昌信

こと

な

ちから

ひび

いたつき

事を成す力は日々の労と

いしわりざくら

石割桜

われ かた

吾に語りし

神奈川県横浜市 牛島 芳一

ほうはい いじんう
澎湃と偉人生みにし

もりおかに

やま げん ひと ま

山は巖として人を待つかも

宮城県仙台市

渡邊

拓

こまいぬ せな はなち はちまん
狛犬の背に花散る八幡に

ひび ひちりき

響く箏篋

まいひめふたり

舞姫二人

青森県青森市

佐東亜阿介

たくぼく こうはい しょうねん
啄木の後輩らしき少年ら

ふ きよ

拭き清めいる

ふる

や

古き学び舎

神奈川県小田原市

楓川あけみ

もりおか まつぞのちよう こぶしさ
盛岡の松園町に辛夷咲き

きたぐに はる

北国の春

くちずさ

ついで口遊ぶ

盛岡市

中島

久光

おも　　もりおか　　まちいまは
思ひゐし盛岡の街今晴れて

あす　　さ
明日は去りゆく

きみ
君のふるさと

神奈川県横浜市　戸田　紀子

こずかた　　ふち　　あお
不来方のおほりの縁に青めける

やなぎあお
柳仰ぎて

たくぼくおも
啄木想う

盛岡市　餘目　忠吉

ふりむけば

こずかたばし
不来方橋のたもとから

しろ　　み　　いわてさんみ
まだ白き身の岩手山見ゆ

秋田県大仙市　藤田　直樹

春の部へジュニア部門へ

優秀賞二首

いしがき

石垣としだれ桜の美しさ

ぎくら

うつく

はるき

よろこ

春来た喜び

しまい

かた

姉妹で語る

盛岡市

屋宮

桃

き

いえ

むかし

木の家に昔のものがつまってて

れきし

歴史あふれる

まち

もりおかの町

山形県山形市

荒井

凜花

【講評】雪と寒さから解放された盛岡の春は、生きとし生けるものの息吹に満ちています。ここに暮らしながら気付かずにはいた様な春を、皆様の短歌から知ることができました。たくさんの良い作品をお寄せくださり嬉しく思います。

平成二十八年 六月選

投稿数 百二十六首

選者 松田 久恵氏